

ベトナム語の文末詞 *đây, này, đấy, ấy, kia*

安達 真弓

キーワード： 文末詞、間投詞、指示詞、文法化

要旨

本稿では、ベトナム語の指示詞の単独形や名詞修飾形から文法化したと考えられる文末詞、あるいは間投詞としての *đây, này, đấy, ấy, kia* の用法について、指示詞の用法と関連付けながら記述した。これらの文末詞・間投詞は指示詞と同形であるが、明確な指示対象を持たず、省略しても文は成立する。また、空間的遠近よりはむしろ、聞き手に対する呼び掛けや親密さ、驚き、反感といった話し手の態度を表す。

0. はじめに

ベトナム語¹には、話し手の態度や物の見方、心的状態（質問・否定・主張・驚嘆・疑問・謙遜・丁寧など）を表すために、述部の末尾に付加される文末詞がある（Nguyễn Đình-Hòa 1997: 166）。その中には、指示詞の単独形や名詞修飾形と同形で、そこから文法化したと考えられるものがある²。本稿では、ベトナム語の指示詞と同形の文末詞や間投詞 *đây, này, đấy, ấy, kia* の用法について、指示詞の用法と関連付けながら記述する。

1. ベトナム語の指示詞の体系

ベトナム語は、近称・中称・遠称の三系列の指示詞を持つと言われている。安達(2009: 9-10)による分類を表1にまとめる。

表1. ベトナム語の指示詞の分類

		近称		中称		遠称	
		<i>đây</i>	NP+này	<i>đấy (đó)</i>	NP+ấy (đó)	<i>kia</i>	NP+kia
直示用法 ³	話し手との距離	近		遠		遠	
	その他の特徴	親近感		疎遠感		「もう一方」	
照応用法 ⁴		あり		あり		なし	

¹ 本稿では、ベトナム語の例は正書法に従って表記する。ベトナム語は孤立語であり、活用や屈折といった語形変化はない。基本語順は SVO であり、修飾語は被修飾語の後に置かれる。

² 指示詞から文末詞への文法化は、マラヨ・ポリネシア諸語のいくつかの言語においても観察されている。Cleary-Kemp (2007: 336)は、Ambonese Malay 語や Kambera 語の指示詞が、文末において節や文全体を修飾し、空間的な距離だけではなく、時間的・感情的な距離も同時に表している例について報告している。

³ 金水敏・岡崎友子・曾 美庚(2002: 218)によれば、直示用法とは「外界において知覚できるもの、典型的には目に見えているものを直接指し示す用法」である。

2. 近称の *đây* と中称の *đấy*⁵

直示用法では、近称の指示詞 *đây* は話し手の近くにある対象を指示し、中称の指示詞 *đấy* は話し手の近くにない（多くの場合、聞き手に近い）対象を指示する。

(1) Mời anh ngồi {*đây* / *đấy*}. (どうぞ {こちら/そちら} に座って下さい。)

招く 2 (兄⁶) 座る ここそこ

しかし、次の(2)や(3)の文末で用いられている *đây* は、具体的な移動先を指示しているわけではなく、むしろ、話し手が今まさにここで行動を起こそうとしていることを強調している。

(2) Thôi, mình về *đây*. -Tôi đứng *đây*. (「じゃあ、帰るわ。」私は立ち上がった。)

INTERJ 1 (自分) 帰る FP 1 (私) 立つ 起きる [Yoshimoto (2008)]

(3) Thôi nào, chị phải chuẩn bị cho lượt diễn tiếp theo *đây*.

INTERJ 1 (姉) ~しなければならない 準備 ~のため 回 公演 続く 従う FP

(「さて、と、次の出の用意をしなくちゃ。）」 [Yamada (2008)]

そこで、以下ではこのような文末に用いられ指示対象を持たない指示詞を文末詞、文頭近くに置かれ、やはり指示対象を持たない指示詞を間投詞として区別して扱うことにする。

(4)において、近称の指示詞 *này* は話し手の近くにある「宿題」という具体的な対象を指示している。一方、文末詞の *đây* や *đấy* は実体を指示しているわけではなく、また、省略しても文は成立する。この時、*đây* は独り言に用いてもよいが、*đấy* を用いると話し手が聞き手に対して新たな情報を提示していることが明確となり、独り言として解釈することができない。同様のことが(2)と(3)についても言える。

(4) Bài này khó {*đây* / *đấy*}. (この宿題難しい {なあ/よ。})

宿題 この 難しい FP FP

また、話し手を志向するか、聞き手を志向するかの違いは疑問文においてもみられる。*đây* を用いれば自問していることが、また、*đấy* を用いれば聞き手に尋ねていることが明確になる。この時、文末詞 *đấy* を用いなくても疑問文は成立するが、用いた方が親しげに聞こえるという。この親密さも聞き手への志向から生じるものであろう。

(6) Phải làm gì *đây*? (何をすべきなのだろう。)

~しなければならない する 何 FP

4 照応用法とは「言語的テキストによって導入された先行詞と同一指示関係を持つ用法」のことである(金水・岡崎・曹 2002:220)。

5 文末詞 *đây* は、*đó* という形式と置き換えが可能である。

6 ベトナム語では、年齢や性別など、話し手と聞き手の社会的な関係に基づいて、親族名称が人称代名詞として用いられる。今回は、元の親族名称としての意味を、グロスの人称に併記する。

(7) Đi đâu **đây**? (どこへ行くの。)

行く どこ FP

このように、文末詞 *đây* と *đấy* はそれぞれ話し手あるいは聞き手と結び付きやすい。しかし、主語の人称が文末詞の分布に直接影響しているわけではない。他の人称と共に用いられる場合もある。(8)のように、これから起こりうる事象と話し手との関係性が強い場合は、主語が3人称であっても *đây* が用いられ、また(9)のように、新たな情報を提示しようと話し手が聞き手に対して働きかけている場合には、主語が1人称であっても *đấy* が用いられる。

(8) Chắc là ông ta sắp hành mình **đây**. [機嫌が悪そうな社長を見て]

恐らく COP3 (祖父) もうすぐ 拷問する 1 (自分) FP (恐らく彼はもうすぐ私を叱るだろう。)

(9) [女性が恋人のためにカツ丼を遠くまで届けに行く場面]

Mình đến để mang món katsudon cho cậu **đấy**.

1 (自分) 来る ~ために 持ってくる CLF カツ丼 ~に 2 (叔父) FP

(私はあなたにカツ丼を届けるために来たの。)

[Yoshimoto (2008)]

しかし、文末詞 *đấy* の使用には時制の制限があり、村上 (2003: 46) は「*đấy* の使われるのは、「今」という時点に、「そこ」という場所で行われている活動に限る」と述べている。従って、(10)のような場合には、*đấy* は適当ではない。同様に、文末詞 *đây* も現在時制でしか使えない。

(10) *{Hôm qua / Ngày mai} anh đi đâu **đấy**? ({昨日/明日} どこに行くの?)

昨日 明日 2 (兄) 行く どこ FP

3. 近称の *này*

名詞を修飾する近称の指示詞 *này* は、直示用法では、単独で用いられる近称の指示詞 *đây* と同様に、話し手の眼前の対象を指示する。しかし、(11)では *này* に前置された名詞の指示対象は発話の場にはないにも拘わらず、話し手の眼前にあるかのように扱われている。また、(12)でも抽象的な事柄があたかも具体的な事物であるかのように扱われている。これらの例においては、*này* は事物を列挙するための文末詞として機能していると考えられる。

(11) - Có được ăn nhiều thứ ngon không? (美味しいものをたくさん食べられた?)

Q ~できる 食べる たくさん 種類 美味しい Q

- Ồ, xem nào, sashimi **này**, tôm **này**, thịt lợn rừng **này**,

INTERJ 見る どれ 刺身 FP えび FP 肉 いのしし FP

hôm nay còn được ăn món Pháp nữa.

今日 また ~できる 食べる 料理 フランス さらに

[Yoshimoto (2008)]

(うん、さしみでしょ、えびでしょ、いのししの肉でしょ、今日はさらにフランス料理を食べられる。)

- (12) Anh ấy đẹp trai này, học giỏi này. (彼はかっこいいし、勉強もよくできるし。)
3 (兄) 格好いい FP 勉強する 上手な FP

また *này* は、今ここにあるもの、あるいはこれから話し手が述べることに聞き手の注意を向けさせるために、文頭に近い位置で間投詞として用いられる。

- (13) *Này, đọc bản thông báo này đi.* (ほら、この掲示板を読んでごらん。)
INTERJ 読む 板 通告 この FP (命令)

- (14) *Nghe này. Mẹ vừa mua một cái máy xay hoa quả đấy.*
聞く INTERJ 1 (母) ~したばかり 買う - CLF 機械 砕く 果物 FP
(ねえ、聞いてよ。私はジューサーを買ったばかりなんだよ。) [Yoshimoto (2008)]

4. 中称の *ấy*⁷

名詞を修飾する中称の指示詞 *ấy* は、(15)に例示するように、照応用法を持つ。

- (15) *Nếu kịp tàu siêu tốc thì chúng ta đi tàu { *này / đó / *kia } nhé.*
もし 間に合う CLF 特急 ~なら 2.PL.INCL (我々) 乗る CLF この その あの FP
(もし特急に間に合えば、それに乗っていこう。)

この用法と関連すると考えられるのが、既に言及された、あるいは想定可能な選択肢の中からある特定のものを選び出し、さらに詳しく述べたり、驚きを表したりするための文末詞としての用法である。

- (16) *Cô bồ của Tanabe, nghĩa là cái cô bồ cũ ấy...*
女性 恋人 ~の 田辺 意味 COP CLF 女性 恋人 古い FP
đã tát Tanabe một cái ở trong căng-tin đấy. [Yoshimoto (2008)]
既に 平手で打つ 田辺 - CLF ~で 中 食堂 FP
(田辺の彼女が、つまり前の彼女が…、田辺を食堂で平手打ちしたんだよ。)

- (17) *Ngày xưa, người đó từng là đàn ông. - Cậu ta đáp. - Hồi còn rất trẻ ấy.*
日 昔 人 その かつて COP 男性 3 (叔父) 答える 時 まだ とても 若い FP
(「昔はあの人も男だったんだよ。」彼は言った。「すごく若いころね。」) [Yamada (2008)]

- (18) - *Sakurai này, ngày kia cô có chuyến đi viết bài ở vùng Izu đấy.* (中略)
桜井 INTERJ 明後日 1 (叔母) ある 便 行く 書く 文章 ~で 地方 伊豆 FP
- *Izu ấy ă? Viết bài cho tạp chí há cô?*
伊豆 FP FP (丁寧) 書く 文章 ~のために 雑誌 FP (疑問) 2 (叔母)
(「桜井さん、明後日私は伊豆地方の取材があるのよ。(中略)」
「伊豆ですか？雑誌に記事を書くんですか？」) [Yoshimoto (2008)]

⁷ 文末詞 *ấy* は、文末詞 *đấy* と異なり、*đó* という形式に置き換えることはできない。

また、*ấy* は間投詞として、聞き手への反感を表す。これは元の指示詞の中称の系列が持つ疎遠感と一致する特徴である。

(19) *Ấy, đừng làm thế.* (こら、そんなことをしてはいけません。)
INTERJ ~してはならない する そのような

(20) *Ấy, đã bảo mà.* (ほら、言ったじゃないの。)
INTERJ PRF 言う FP (反感)

(21) *Ấy, sao anh lại nói vậy?* (あら、なんでまたそんなことを言うの?)
INTERJ なぜ 2 (兄) また 言う そのような

5. 遠称の *kia*

遠称の指示詞 *kia* は、典型的には(22)のように、話し手の目に見えていて、話し手から遠い場所にある対象を指示する。

(22) *Kia là núi Phú Sĩ.* (あれは富士山です。)
あれ COP 山 富士

一方、(23)では、文頭の *kia kia* は中称の指示詞 *đấy* と共に用いられており、指示詞としては余剰である。よってこの場合、*kia kia* は話し手から離れた場所を指示しているというよりもむしろ、話し手の発見による驚きを表したり、聞き手の注意を引いたりするために間投詞として用いられていると言える。

(23) *Kia kia, đấy là kẻ trộm!* (ほら、あれは泥棒だ!)
INTERJ それ COP CLF 泥棒

また、指示詞 *kia* は、(24)のように、「もう一方の」という意味も表す。

(24) *Anh có thể viết tiếp ở mặt kia tờ giấy.*
2 (兄) ~してもよい 書く 続ける ~に 面 もう一方の CLF 紙
(紙のもう一方の面に続けて書いても構いません。)

一方、(25)から(28)の文末で用いられている *kia* は指示対象が明確ではなく、(25)と(26)では話し手の「予想外の驚き」を、また(27)と(28)では「意見の食い違い、反感」を表している。これは指示詞 *kia* の「もう一方の」という意味が「話し手の考えと異なる」という意味へと変化したものと考えられる。

(25) *Ngoài tiếng Anh ra, anh ấy còn nói được tiếng Nhật kia à.*
外に 英語 出る 3 (兄) さらに 話す できる 日本語 FP FP(疑問)
(英語の他に、彼は日本語も話せるのですか。)

(26) *Cảnh vịnh Hạ Long đẹp lắm kia.* (ハロン湾の景色は本当に美しいなあ。)

風景 湾 ハロン 美しい とても FP

(27) *Anh nói gì kia ạ?* (何とおっしゃいました?)

2 (兄) 言う 何 FP FP(丁寧)

(28) *Anh đã báo anh không đến kia mà.* (来ないと言ったじゃないですか。)

2 (兄) 既に 報告する 2 (兄) ~ない 来る FP FP (反感)

6. おわりに

本稿では、ベトナム語において、具体的な対象を指示する指示詞の用法と関連付けながらから、聞き手への働きかけや呼び掛けなどを表す文末詞や間投詞の用法の説明を試みた。ここまでに述べたことを表2にまとめる。

表2. ベトナム語の指示詞と同形の文末詞・間投詞

		(近称)		(中称)		(遠称)
		<i>đây</i>	<i>này</i>	<i>đấy (đó)</i>	<i>ấy</i>	<i>kia</i>
文末詞	時制	現在	—	現在	—	—
	志向	話し手	—	聞き手	—	—
	その他	独り言	列挙	新情報の提示	特定	驚き・反感
間投詞		—	近	—	驚き・反感	遠

今後も、小説などにおける *đây*, *này*, *đấy*, *ấy*, *kia* の実際の用例を収集・分析し、指示詞、文末詞及び間投詞の分類基準を精密化したい。

略号 1: 1人称代名詞、2: 2人称代名詞、3: 3人称代名詞、CLF: 類別詞、

COP: コピュラ、FP: 文末詞、INCL: 包括形、INTERJ: 間投詞、PL: 複数、

Q: 疑問

引用した小説

Yamada, Amy. (2008) *Lương Việt Dũng (trans.) Đôi mắt ấy vẫn ở trên gương.* Hanoi: Nhà xuất bản

Hội Nhà văn. (原著は、山田詠美 (1985) 『ベッドタイム・アイズ』東京: 河出書房新社

Yoshimoto, Banana. (2008) *Lương Việt Dũng (trans.) Kitchen.* Hanoi: Nxb Hội Nhà văn. (原著は、

吉本ばなな『キッチン』岡山: 福武書店)

参考文献

- 安達真弓 (2009) 「ベトナム語指示詞の直示用法における聞き手の位置と記憶指示用法の *kia* について」『東京大学言語学論集』28, 1-11.
- 金水敏・岡崎友子・曹 美庚 (2002) 「指示詞の歴史的・対照言語学的研究：日本語・韓国語・トルコ語」生越直樹 編『対照言語学』東京大学出版会, 217-247.
- 村上雄太郎 (レー・バン・クー) (2003) 「ベトナム語における関連づけ—日本語との対照を試みて—」『神戸市外国語大学 外国語研究』58, 45-57.
- Cleary-Kemp, Jessica. (2007) “Universal uses of demonstratives: Evidence from four Malayo-Polynesian Languages.”, *Oceanic Linguistics*, 46 (2), 325-347.
- Nguyễn Đình-Hòa. (1997) *Vietnamese – Tiếng Việt không son phấn* [Vietnamese without veneer]. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

Sentence-Final Particles in Vietnamese: *đây, này, đấy, ấy* and *kia*

ADACHI, Mayumi

Keywords: sentence-final particles, interjections, demonstratives, grammaticalization

Abstract

The present paper describes the use of the sentence-final particles and interjections *đây, này, đấy, ấy* and *kia* in Vietnamese, which are generally taken to have been grammaticalized from the independent and adnominal demonstratives. Although these sentence-final particles and interjections do not differ formally from the demonstratives, they have no specific referent and can be omitted. They denote, instead, the speaker's attitudes toward the hearer, such as intimacy, surprise and aversion.

(あだち・まゆみ 博士課程)